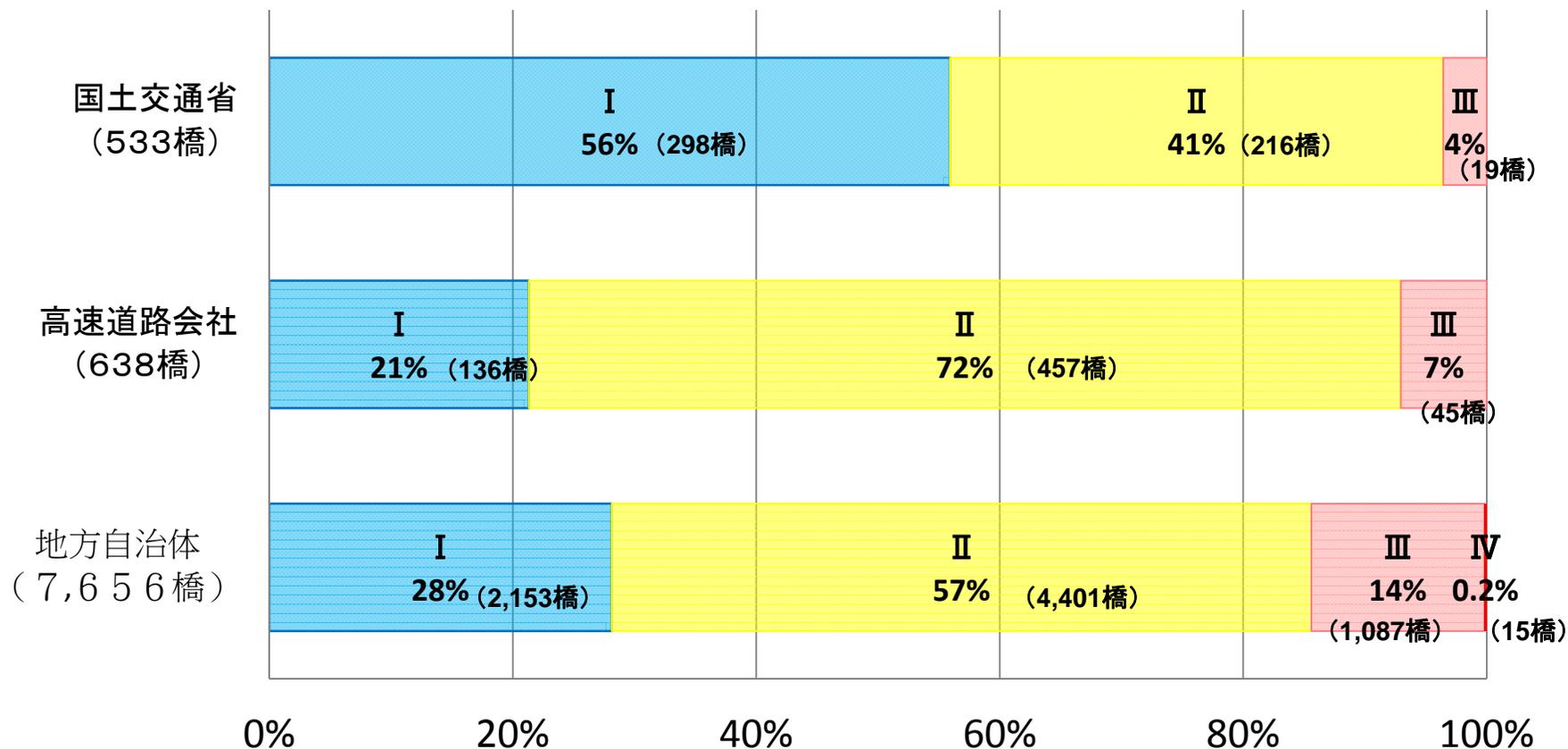


兵庫県 の点検・診断結果(橋梁)

資料4

■ H26・27の点検結果については、自治体では損傷程度Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの割合が高い傾向

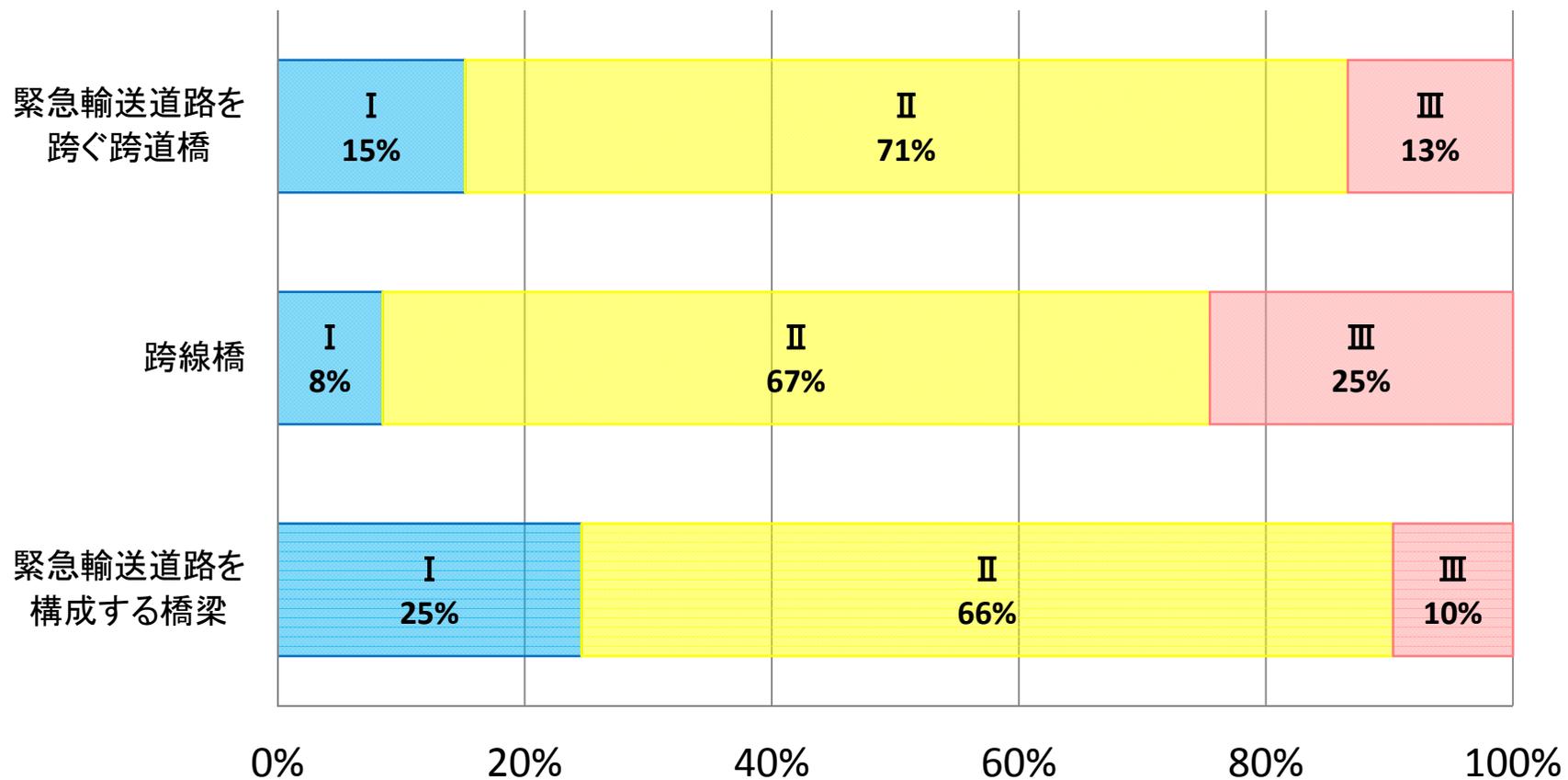


- ・ 予防保全段階の判定区分Ⅱが5,074橋、早期措置段階の判定区分Ⅲが1,151橋、緊急措置段階の判定区分Ⅳが15橋。
- ・ 補修ストックが増大、今後補修・補強にも力を入れていく必要あり。

(出典)道路メンテナンス年報(H28.9)

最優先で点検すべき橋梁の点検結果(H26・27累積)

【兵庫県 全道路管理社分】



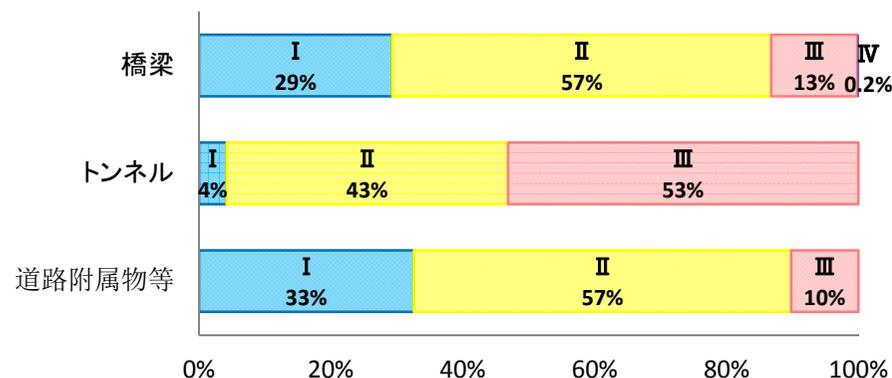
**跨線橋の判定区分Ⅲの割合が高い！！
全国(21%)近畿管内(22%)より、高い割合**

兵庫県内の点検結果(平成26・27年度)

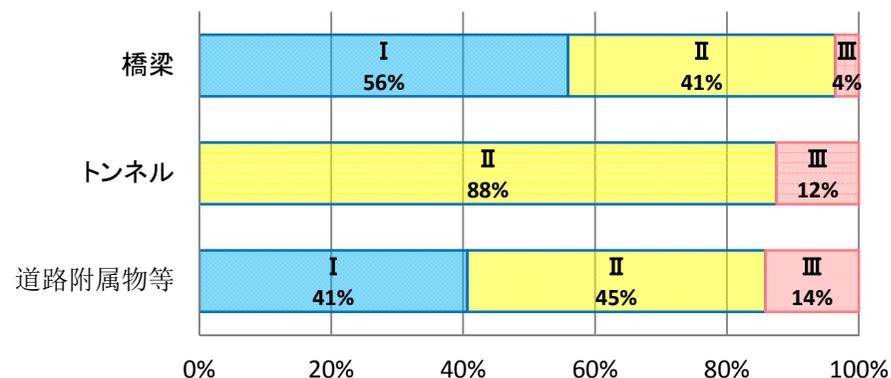
(1) 橋梁・トンネル・道路附属物等

○ 判定区分の割合については、橋梁：Ⅰ 29%、Ⅱ 57%、Ⅲ 13%、Ⅳ 0.2%、
トンネル：Ⅰ 4%、Ⅱ 43%、Ⅲ 53%、道路附属物等：Ⅰ 33%、Ⅱ 57%、Ⅲ 10%、で
トンネル、道路附属物等でⅣはありません。

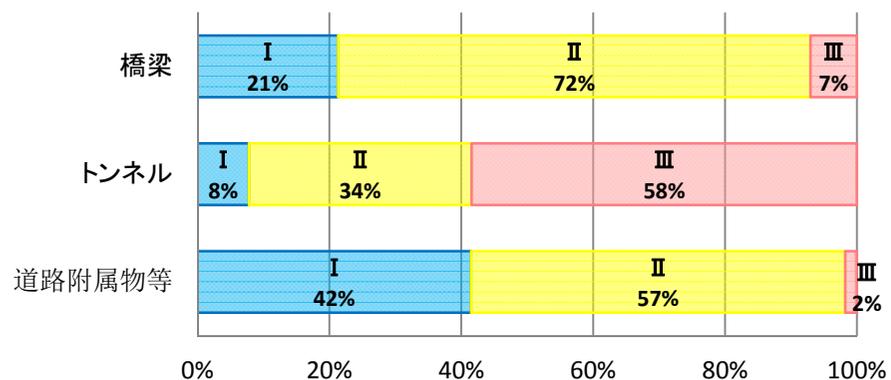
【兵庫県 全道路管理者分】



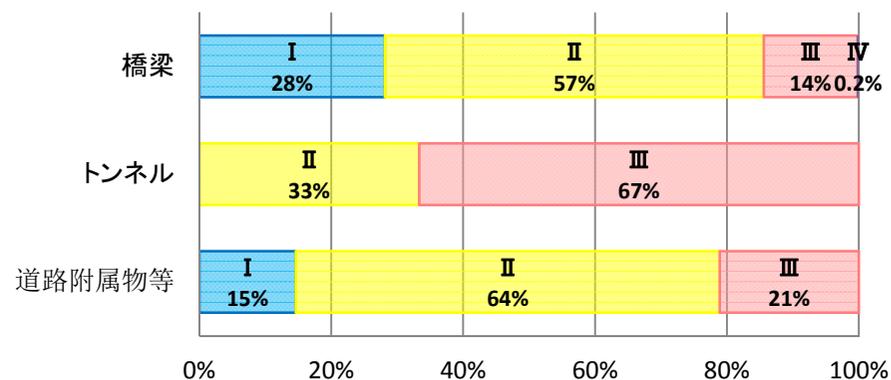
【兵庫県 国土交通省管理分】



【兵庫県 高速道路会社管理分】



【兵庫県 地方公共団体等管理分】

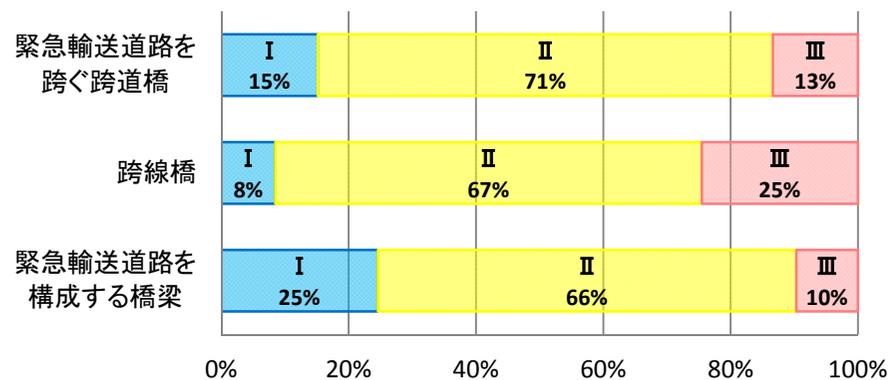


兵庫県内の点検結果(平成26・27年度)

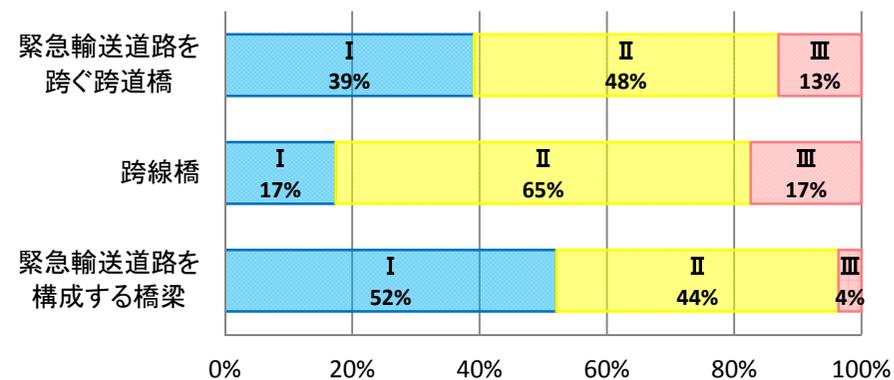
(2) 最優先で点検すべき橋梁

○ 判定区分の割合については、緊急輸送道路を跨ぐ跨道橋：Ⅰ 15%、Ⅱ 71%、Ⅲ 13%、
 跨線橋：Ⅰ 8%、Ⅱ 67%、Ⅲ 25%、緊急輸送道路を構成する橋梁：Ⅰ 25%、Ⅱ 66%、Ⅲ 10%、
 Ⅳはありません。

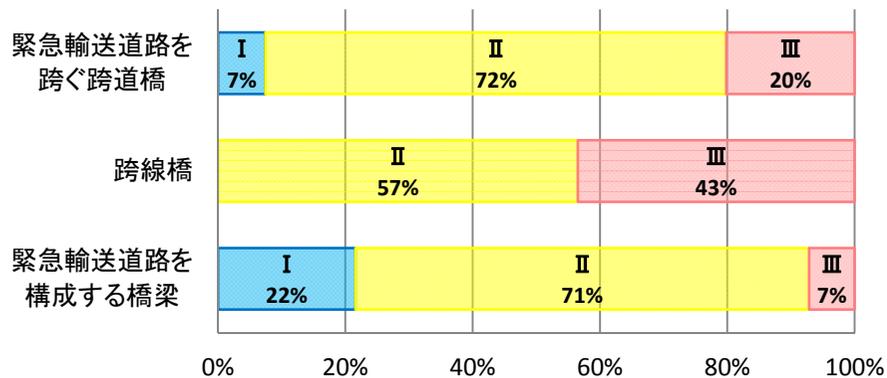
【兵庫県 全道路管理者分】



【兵庫県 国土交通省管理分】



【兵庫県 高速道路会社管理分】



【兵庫県 地方公共団体管理分】

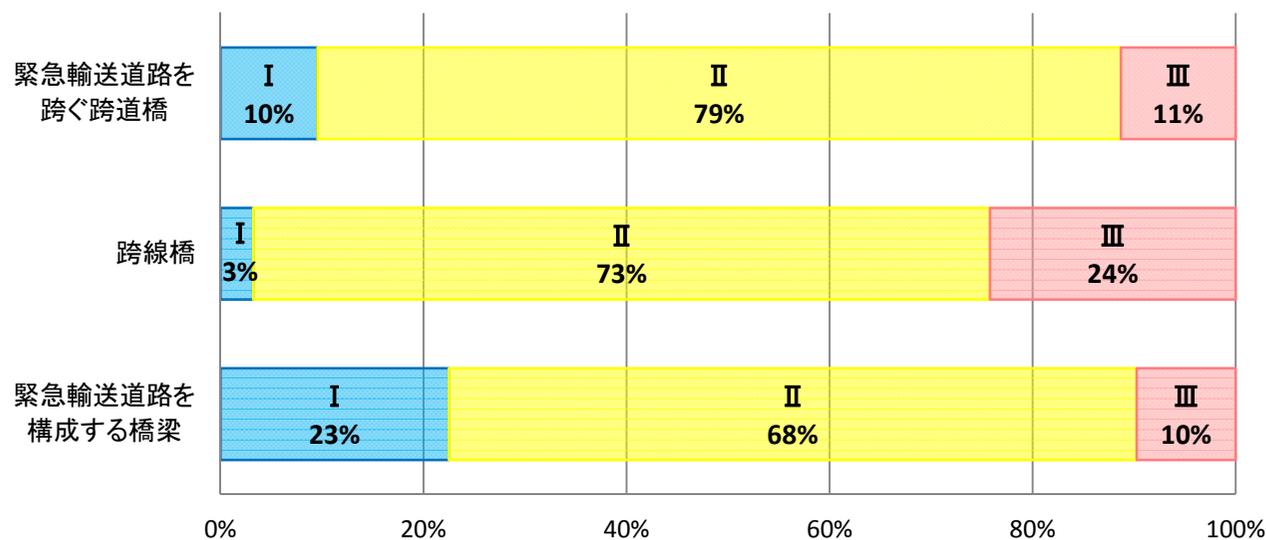


兵庫県内のH27点検結果(最優先で点検すべき橋梁)

最優先で点検すべき橋梁

○ 最優先で点検すべき橋梁は、5,200 橋のうち 1079橋の点検を実施しました。結果は、判定区分 I 216橋(20%)、II 747橋(69%)、III 116橋(11%)で、判定区分IVはありません。

道路施設	判定区分 I (健全)	判定区分 II (予防保全段階)	判定区分 III (早期措置段階)	判定区分 IV (緊急措置段階)
緊急輸送道路を 跨ぐ跨道橋	10% (11)	79% (91)	11% (13)	0% (0)
跨線橋	3% (2)	73% (45)	24% (15)	0% (0)
緊急輸送道路を 構成する橋梁	23% (203)	68% (611)	10% (88)	0% (0)
(参考) 橋梁	30% (1999)	57% (3795)	12% (811)	0.2% (11)



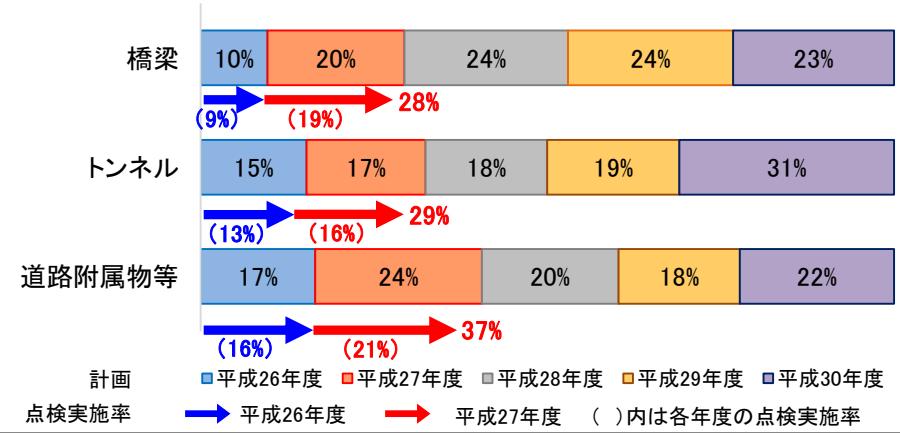
- 平成26年7月より、道路管理者は、全ての橋梁、トンネル等について、5年に1度、近接目視で点検を行い、点検結果として健全性を4段階に診断することとしています。
- 道路メンテナンス年報は、道路インフラの現状や老朽化対策についてご理解頂くためにまとめたもので、今回は、平成27年度の点検実施状況、点検結果をとりまとめました。
- 道路メンテナンス年報は、行政関係者による点検結果を踏まえた今後の措置方針の立案だけではなく、大学や民間企業での維持管理分野の分析・研究開発での活用も期待しています。

点検結果(平成26・27年度)

累積点検実施率(全体)

○ 平成26・27年度の累積点検実施率は、橋梁 約28%、トンネル 約29%、道路附属物等 約37%となっています。

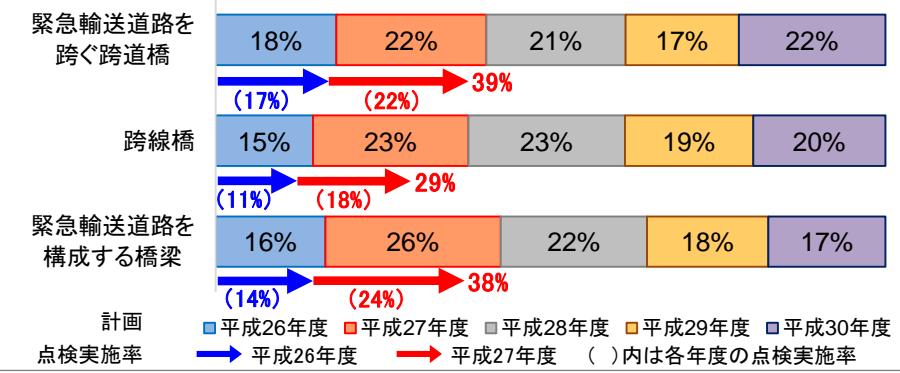
■5年間の点検計画・累積点検実施率(全道路管理者合計)



累積点検実施率(最優先で点検すべき橋梁)

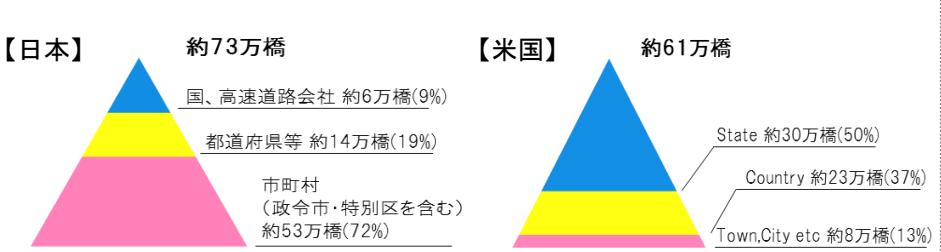
○ 平成26・27年度の累積点検実施率は、緊急輸送道路を跨ぐ跨道橋 約39%、跨線橋 約29%、緊急輸送道路を構成する橋梁 約38%となっています。

■最優先で点検すべき橋梁の点検計画・累積点検実施率(全道路管理者合計)



【参考】橋梁の現状

○ 全橋梁のうち、市町村管理が約7割を占めており、米国と比較しても、日本の市町村管理の橋梁数が極めて多いことが特徴です。



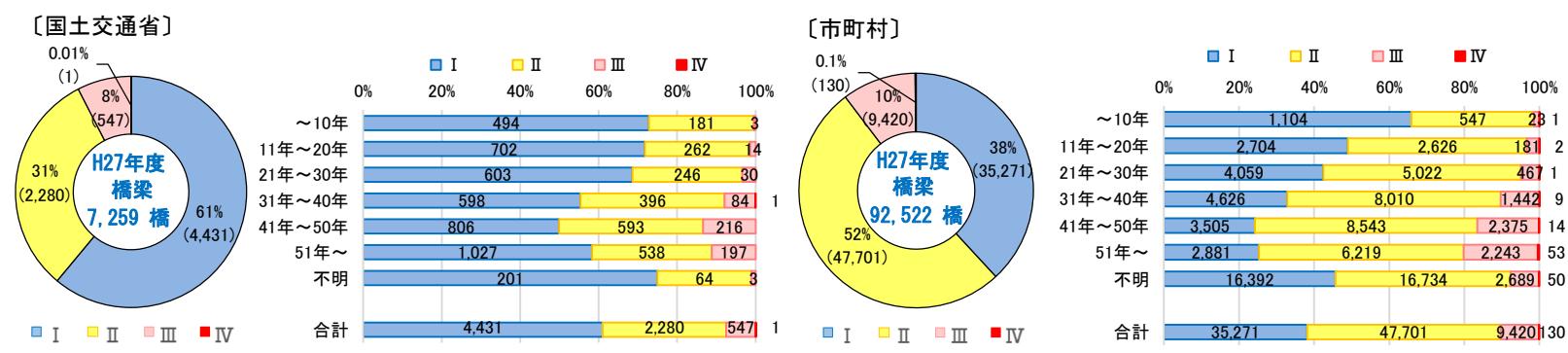
出典) 日本 道路局調べ(H27.12時点)、米国 FHWA(Federal Highway Administration)ホームページ(2014.12時点)
※StateにはFederal(約1万橋)を含む

平成27年度の点検結果

点検結果(橋梁)

- 平成27年度に点検を実施した橋梁のうち、緊急又は早期に修繕などの措置を行う必要のある橋梁(判定区分Ⅲ・Ⅳ)が、国は約8%(548橋)であるのに対して、市町村では約10%(9,550橋)となっています。
- 建設経過年数が長くなるほど、早期に修繕などの措置が必要な橋梁の割合が多くなっています。
- 緊急措置段階である判定区分Ⅳの橋梁については、速やかに緊急措置を実施したところです。(年報にリストを添付)

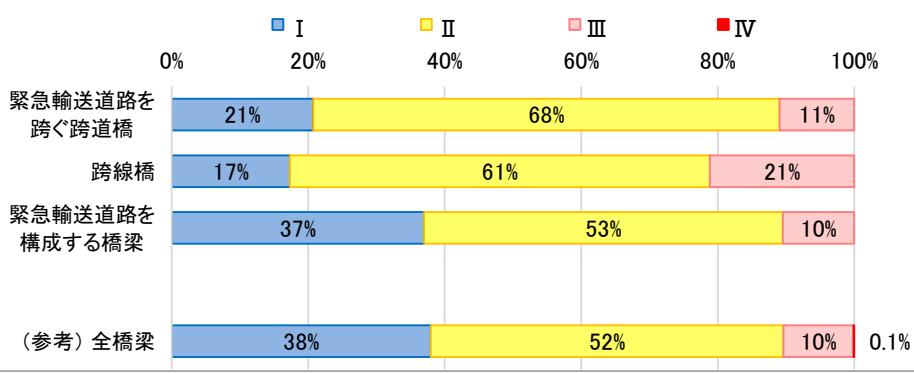
■判定区分と建設経過年度(橋梁)



点検結果(最優先で点検すべき橋梁)

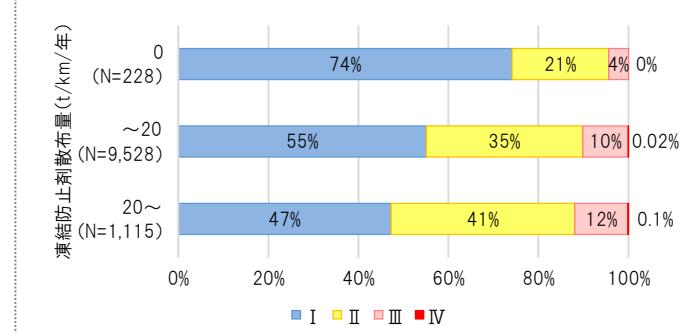
○ 最優先で点検すべき橋梁の判定区分Ⅲの割合は、緊急輸送道路を跨ぐ跨道橋で約11%、跨線橋で約21%、緊急輸送道路を構成する橋梁で約10%となっています。(橋梁全体: 約10%)

■判定区分(最優先で点検すべき橋梁)



<凍結防止剤の影響分析>

○ 凍結防止剤の散布量が多い橋梁は、散布量が少ない橋梁に比べ健全度が低い傾向にあります。

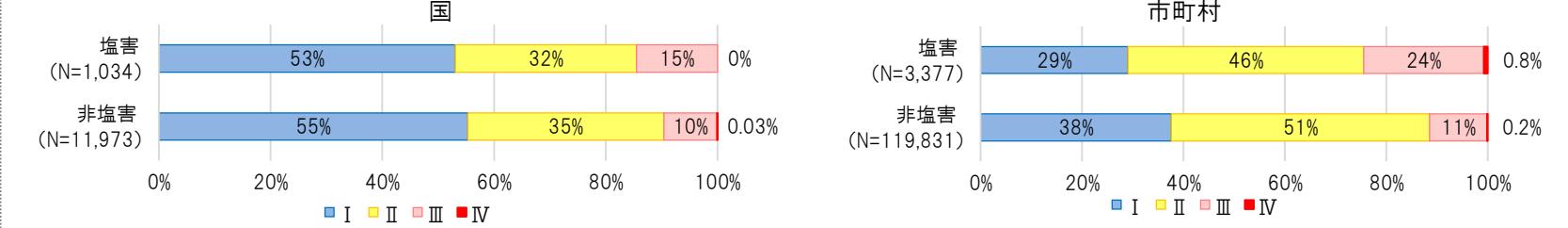


※国土交通省が管理する橋梁のH26~H27年度点検結果
※凍結防止剤の散布量は当該橋梁が存在する路線における平成26年度の散布量をもとに算出

【参考】今後のデータ分析・活用の事例

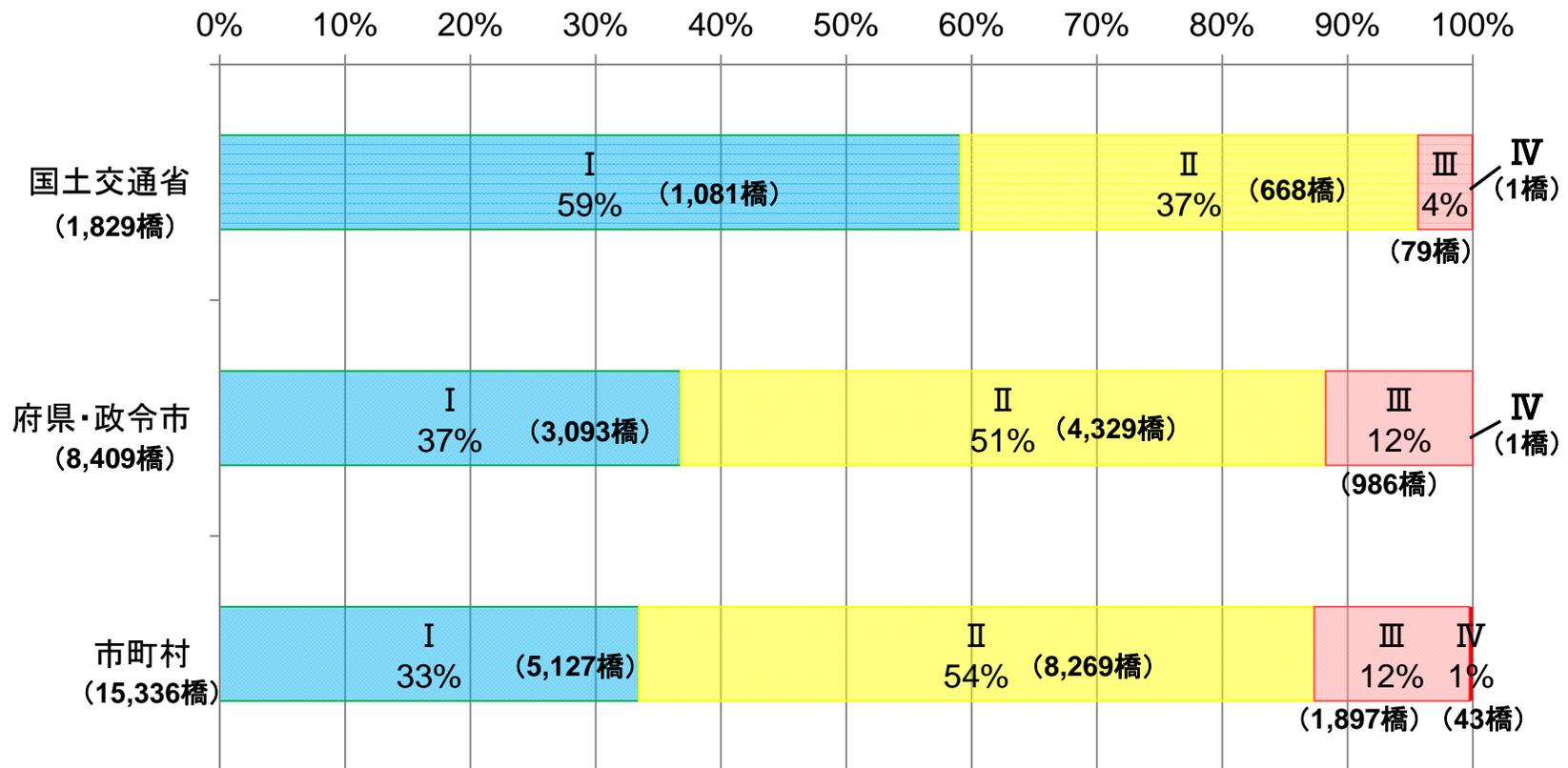
<塩害の影響分析>

○ 塩害の影響地域にある橋梁は、塩害の影響地域以外と比べて健全度が低い傾向にあり、地方公共団体が管理する橋梁はその傾向が顕著です。



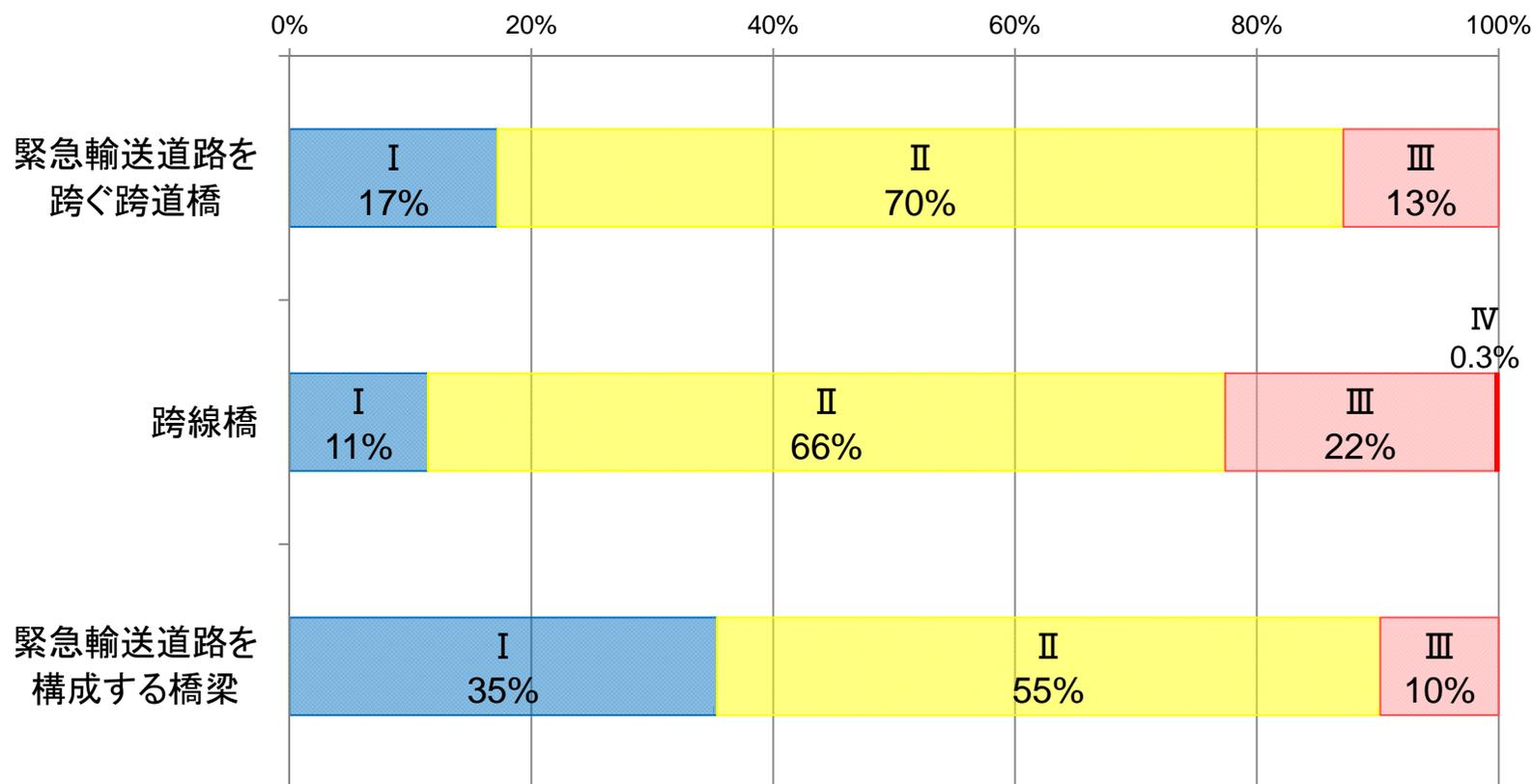
※塩害の影響地域の区分は道路橋示方書を参考に設定

■H26・27の点検結果については、自治体では損傷程度Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの割合が高い傾向



- ・予防保全段階の判定区分Ⅱが13,266橋、早期措置段階の判定区分Ⅲが2,962橋、緊急措置段階の判定区分Ⅳが45橋。
- ・補修ストックが増大、今後補修・補強にも力を入れていく必要あり。

【近畿 全道路管理者分】



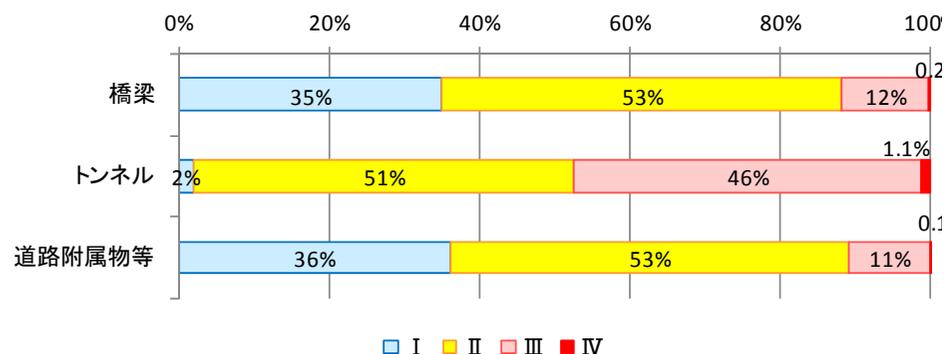
跨線橋の判定区分Ⅲの割合が高い！！

近畿管内の点検結果（平成26・27年度）

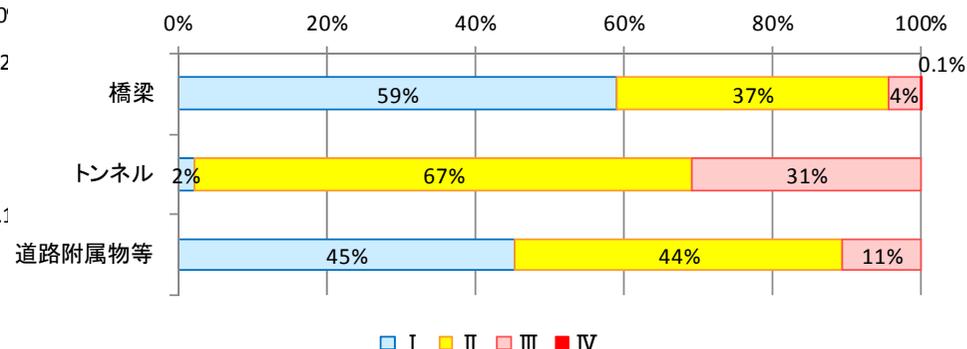
(1) 橋梁・トンネル・道路附属物等

○ 判定区分の割合については、橋梁：I 35%、II 53%、III 12%、IV 0.2%、
トンネル：I 2%、II 51%、III 46%、IV 1.1%、道路附属物等：I 36%、II 53%、III 11%、
IV 0.1%となりました。

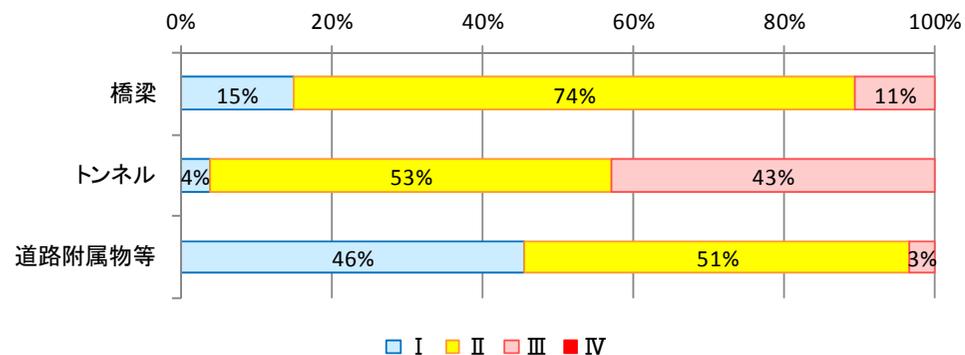
【近畿 全道路管理者分】



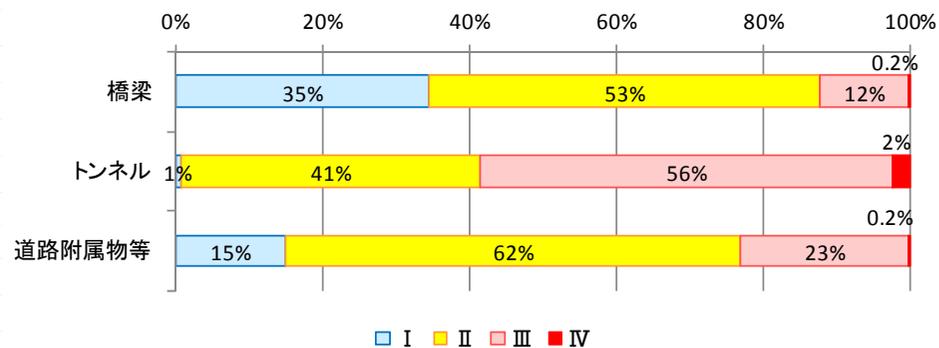
【近畿 国土交通省管理分】



【近畿 高速道路会社管理分】



【近畿 地方公共団体等管理分】

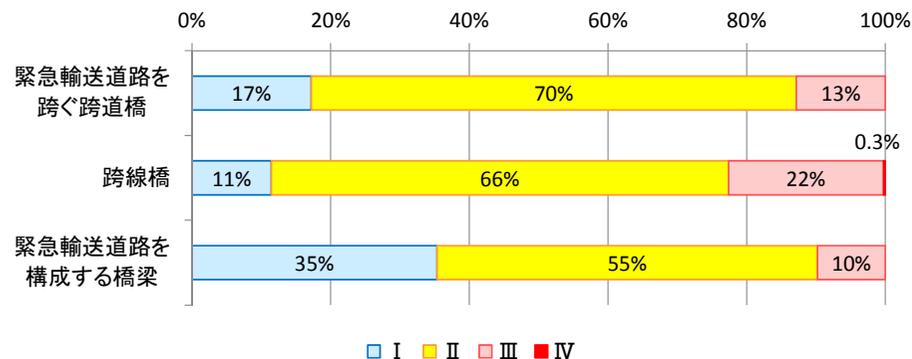


近畿管内の点検結果（平成26・27年度）

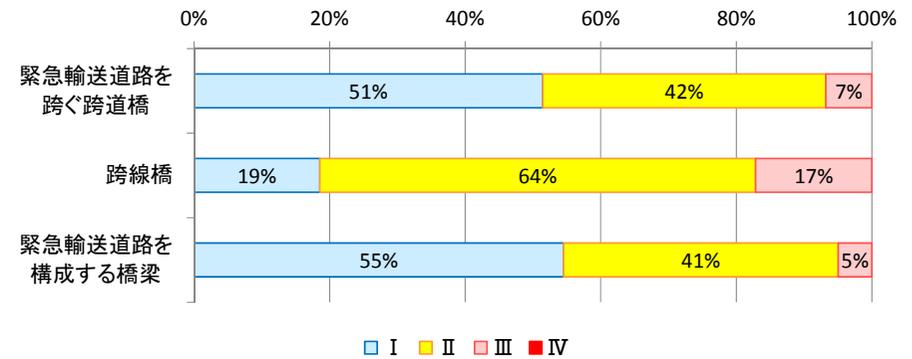
(2) 最優先で点検すべき橋梁

○ 判定区分の割合については、緊急輸送道路を跨ぐ跨道橋：Ⅰ 21%、Ⅱ 67%、Ⅲ 12%、
 跨線橋：Ⅰ 21%、Ⅱ 57%、Ⅲ 22%、Ⅳ 0.1%、緊急輸送道路を構成する橋梁：Ⅰ
 34%、Ⅱ 54%、Ⅲ 12%、Ⅳ 0.01%となりました。

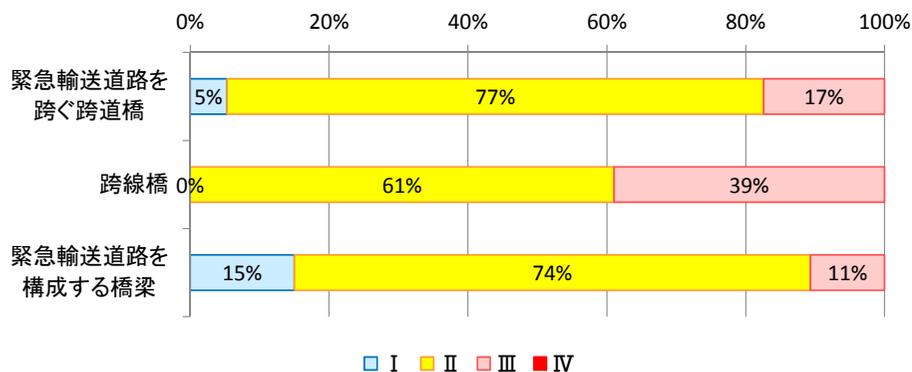
【近畿 全道路管理者分】



【近畿 国土交通省管理分】



【近畿 高速道路会社管理分】



【近畿 地方公共団体等管理分】

